

熊本教区球磨組の僧侶有志

9人の子どもを受け入れ

熊本教区球磨組くまもとの僧そうさせた。

侶有志は7月29日から 熊本での生活に大満
8月5日まで、被災地 足した子どもたちの中
支援団体「走馬会そうま」の呼 には、最後に書いた両
びかけに応じて、福島 親への手紙の中で「夏
県の子どもら9人を受 の一番の思い出となっ
け入れた。 た熊本に来られたの

子どもたちは寺院に は、お父さんお母さん
滞在し、清流の川辺川 のおかげ。ありがとう
で泳ぎ、バーベキュー ございました」と綴っ
など大自然を満喫し夏 た子もいた。

休みの楽しい思い出を 恒松さんは「祖父は
作った。 過去の戦争中に沖縄か

同組は、地元地域と らの疎開6家族30人を
協力して支援活動をし 受け入れている。当時
ていこうと、相良村・ の思いを継承し、人々
聚教寺の恒松見照さん の苦しみに寄り添う実
らが組内に呼びかけ、 践として今後もできる
寺院のネットワークを 支援活動をしていき
生かし受け入れを実現 い」と話していた。